

橋本芳子さん(朝日劇場(橋本土興行株式会社)代表取締役)の会社を訪問しました
多種多様な演芸の舞台としてご利用ください!
 新世界ならではの「味」、「実演」、極上の「音響」にこだわっています!
 朝日劇場の初代オーナーは、朝日山四郎右衛門と言う力士でした。その劇場を受け継いだ(明治後期)のが、橋本さんのご主人の父、橋本繁太郎さんでした。順調な運営が続いていたのですが、昭和20年の大阪大空襲で大被害を被りましたが、繁太郎さんの長男が橋本さんのご主人、秀太郎さんが奔走し、再開。当時はミヤコ蝶々さんや、藤山寛美さん、ディック・ミネさんなどが舞台上がる特徴のある劇場でした。その後、時代背景によって様々なレジャー産業を展開しましたが、昭和52年大衆劇場として再開しました。

お客様ニーズの変化も見据えながら、様々なジャンルの演芸、発表の場として提供していきたいと思っています。最近では、タップダンスの公演なども反響があって、さらに新しい展開も期待していますし、こういった「舞台」を知らない方にも是非、気軽に足を運んでいただきたいです。一方、朝日劇場ならではの「大衆劇場」の良さも知ってもらいたいし、伝承していきたいという思いもあります。

舞台のご利用にご満足いただける貸しホールです。様々なジャンルの公演などにご利用ください!

本当に気軽! 舞台俳優も美しく魅せてくれます! 非日常を味わえる「朝日劇場」です♪

とにかく一度来てください!!1ステージたっぷり楽しんでいただけます。午前・午後の公演にこられるほど、虜になられるお客様もいらっしゃり…。それくらい魅了されるんですね。また、舞台上で踏んでこられた役者さんの演技は、テレビなどで見る演技とは違って、迫力もあるし、何と言っても「実演」こそが舞台の良さです。たっぷり舞台を楽しんでいただいたら、新世界でたっぷり大阪文化も楽しんでいただきたい。地域とともに育ってきましたし、大好きなこの街をたくさんの方と喜びを共有したい。そんな気持ちで、これからも頑張っていきたいです。



劇場の看板。昭和の薫り漂う趣き深い佇まいも魅力です。



麗やかな舞台。すっかり魅了されました。橋本繁太郎氏(初代社長)、トク氏(二代目)秀太郎氏(三代目)の銅像



会員の橋本芳子さん(中央)と橋本美奈子さん(右) 左は取材当日公演の座長、都若丸さん

朝日劇場のご利用については下記URLをご覧ください

<http://www.hashimototochi.co.jp>



漫才のワークショップでボケとツッコミ体感!

笑学

いじめや学級崩壊など教育現場では様々な問題がありますが、その原因の一つに子どもたちのコミュニケーション能力の不足があると私たちは考えています。伝えたいことをきちんと伝えることが出来るなどコミュニケーションがしっかり取れば、いじめにつながりそうな出来事も未然に解決されるのではないのでしょうか。そこで、まさにデジタル世代の小学生に対して、関西の演芸文化の真骨頂である漫才からボケとツッコミを体感してもらい、相手の話を聞き、話の展開を読む力や互いの信頼関係を構築していくアナログのコミュニケーション力「笑学」を体験できるワークショップを企画しています。この企画は、私たち関西演芸推進協議会のプロデュースにより、無償にてワークショップを実施しております。

主催:NPO法人関西演芸推進協議会
 協力:相互タクシー(株)、(株)小学館集英社プロダクション、千房(株)
 特別協力:(株)JOSHO、前田葉子様
 対象:大阪府下の小学校
 (募集中※応募校多数の場合は抽選にて決定)

関西の上質な演芸文化のために…

上方演芸の文化に触れ、共に育む活動と一緒にしませんか…

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思っています。

公式ウェブサイト <http://www.walive.org> 笑ライブ

編集後記 先日、私の母が「マハラジャ復活したらしいねえ?」とよく聞けば、母が40代の頃、マハラジャで踊っていたそう…。なんまあ!?と思いつつ、母の話はさておき、懐かしいディスコ復活、少ときめいたり(笑)ファッションなどもそう、今「古い」と思うものが、ひょっとしたら近い将来「新しい」ものになるかもしれない。「いつか着れるかも」と何年も置いている洋服。しかしながら体型が変わってしまったら、ただの「古い」思い出だけになってしまう…。大事な思い出にはサイズ確認も必要かも…と思ったりするのです。(編集部・廣田)



笑ライブ 第24号

walive

「笑ライブ」とは…

「笑」、「商」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名称にしました。

2017年6月

【発行】
 NPO法人関西演芸推進協議会 編集部
 <事務局>
 大阪市浪速区難波中1-10-4
 千房株式会社内
 TEL.06-6633-1430
 FAX.06-6633-1435
<http://www.walive.org>
 info@walive.org

INFOMATION

いつも当協議会へのご理解、ご協力をいただき、会員の皆様には厚く御礼申し上げます。2017年度を迎え、早くも半年が経ちました。また、協議会発足から10年という節目の年でもあります。これまで同様、古き伝統を大切に守り、新しい「演芸」も取り入れながら関西の「芸能文化」を育てていきたいとの思いを基に、上方演芸文化の伝承のための活動をサポートしてまいります。

今後も、協議会を推進するために皆様との交流の場を設け、随時ご案内させていただきます。特に実演の良さを味わっていただきたく、舞台などのイベントにもぜひ足をお運びいただければと思っております。

CONTENTS

☆2017年度「新春例会」開催 ……1頁
 ☆第6回「関西演芸しゃべり話芸大賞」開催のご案内 ……2頁
 ☆ご寄稿「水芸の話」藤山新太郎さま
 ☆「落語のマクラに学ぶスピーチ術」藤田富美恵さま ……3頁
 ☆会員インタビュー・橋本芳子さま
 ☆「笑学」のご案内 他 ……4頁

Report

2017年度「新春例会」開催 (難波スイス会共催)

2017年1月30日(月)
 於)スイスホテル南海大阪



今年の新春例会は軽やかなジャズの演奏で始まりました



伝統ある「水芸」を披露いただいた藤山新太郎さん



福娘さんによるじゃんけん大会



「大阪締め」で会場の皆さんと気持ちをつなぐ



大起水産さんによるマグロ解体ショー

ブリーズ・オブ・ディキシーランドのジャズ演奏で軽快に開会した今年の新春例会。本年も難波スイス会との共催で開催されました。約300名の盛大な新年のスタート。協議会とご縁の深い皆様のご挨拶をはじめ、大起水産様によるマグロの解体ショーや、烏帽子(えぼし)姿で福笹を持った福娘さんがさらに華を添えてくれました。また、伝統芸能「水芸」(本誌中面でご紹介しています)のご披露には、「水絡繰り」とよばれた所以を実感する貴重な体験をさせていただき、この「水芸」に強い関心を持たれた方も多かったようです。このような様々な演芸と出会うことができるのも、大阪で育まれてきた演芸文化との関わりがあってこそのもです。様々なイベントを通じて、関西の演芸との触れ合う機会を得ることで、伝統を守り、育んでいくきっかけとなっていくことに期待します。

また、難波スイス会のみならず共に両会の発展を鼓舞すべく、恒例の「大阪締め」で会場全体を一つにつなぎ、当協議会ならではの演出で会員のみならずみなさまにもご好評をいただくことができました。ご列席頂きましたみなさまに、あらためてお礼申し上げます。

第6回「関西演芸しゃべくり話芸大賞」を開催します

6回目の賞レース!予選のエントリーが間もなく始まります!

話芸とは、
会話のおもしろさと
言葉のおもしろさを磨き、
芸にしたもの

マイク1本で
勝負やでっ!

第1回の決勝から6年。
激戦の予選を勝ち抜いた
関西演芸しゃべくり話芸大賞
「グランプリ争奪戦」
更なる熱戦を期待して
第6回目の開催です!

優勝賞金
300,000円
※10/21(予定)
道頓堀リバーフェスティバル
ステージ出演権

※本戦を動画配信します!

チケットのお問い合わせは
NPO法人 関西演芸推進協議会
〒556-0011大阪府浪速区難波中1-10-4 千原(株)内
TEL:06-6633-1430 FAX:06-6633-1435
http://www.walive.org E-mail: info@walive.org
関西演芸しゃべくり話芸大賞実行委員会 組長:龍光



優勝決定戦

道頓堀リバーフェスティバル
第6回関西演芸しゃべくり話芸大賞

第6回
グランプリは
誰の手に?

大会審査員
澤田 隆治 (メディアプロデューサー) 本多 正義 (漫才作家) ※予定
林 千代 (シナリオライター) 中井 政嗣 (関西演芸推進協議会専務理事) ※予定
大池 晶 (漫才作家) ※予定

日程 **平成29年10月15日(日)**
17:00~20:00(開場16:30)

会場 **ホテル エルセラーンホール**
(大阪市北区堂島1-5-25 TEL:06-6437-1484)

入場料 全席自由 前売2,000円 当日2,500円
ペアチケット3,500円

ゲスト 大阪桐蔭高等学校吹奏楽部
全日本吹奏楽コンクール会賞・日本吹奏コンテスト
最優秀グランプリ賞・又野科学大賞 受賞

本戦チケット販売しています!

ペア(2枚)でお求め
いただくとお得です!!

●前売2,000円
●ペアチケット3,500円
※当日2,500円

初秋の夕べに開催されるショーレース。たくさんの挑戦者の中から勝ち抜いた厳選のしゃべくり話芸を一緒に観戦しましょう!チケットも発売中です。お求めは、事務局までどうぞ!!



今回で第6回となる「関西演芸しゃべくり話芸大賞」、予選の案内と実施概要、エントリーシートの配布を開始し、今年も予選のエントリー受付がよいよ始まります。

予選は前年同様、道頓堀ZAZA POCKET'S。9月9日(土)、10日(日)の開催を予定しています。今回はどんな芸人がチャレンジし、どんな笑いを披露してくれるのか?勝ち残るのはどの演者なのか?とても楽しみです。

また、本戦は大阪・堂島のホテル エルセラーンホールが会場となり、10月15日(日)17:00からの開演です。

ゲストには様々なコンクールで優秀な成績を取ってきた大阪桐蔭高等学校の吹奏楽部をお招きし、審査を待つ約20分ほどの時間、素晴らしい演奏をお楽しみいただくことになっております。

予選は9月9日(土)・10日(日)
ZAZA POCKET'S、
本戦は10月15日(日)
ホテル エルセラーン大阪
で開催です!



ZAZA POCKET'S(予選会場)



ホテル エルセラーンホール(本選会場)※ホテル エルセラーン大阪様HPより

水芸の話 日本古来の奇術「水芸」を会員の皆さまにご紹介いたします!

藤山新太郎さん

水芸は古くは水絡繰りと言いました。作り物の盆景(お盆の中に小さな家や山や川を作り、高砂の爺様婆様を並べたような飾り物)に配管をして、時々簞の先などから水がピューッと吹き上がるものが原型でした。これですと水はせいぜい30cmくらいしか上がりません。舞台ではとても見せられません。この仕掛けを大きくして、舞台に生かしたのは文化文政(1804~)の時代で、舞台に置いた盤に水を入れ、扇子で煽いでいると水が1mくらい吹き上がるという仕掛けを考え出しました。さらにそれを発展させて、曲



7月8日(土)
YES THEATER
17:00開演 18:30開演 19:00開演
藤山新太郎・妙神紀輝・和田奈月・キタノ大地
京夜郎・堀ほろの愛華・眺あんご・澤田隆治

4,000円
4,500円

独楽師が、廻した独楽を刀の刃の上に置き、その独楽の芯から水が吹き上がる仕掛けを考え出しました。これは当時としては画期的なことで、随分不思議がられたようです。しかしいざれにしても、水の出るところは一か所か二か所、水も、出る、止まるを二、三度繰り返せばそれで終わりでした。

水絡繰りを水芸に発展させたのは、大阪で活躍していた三人の手妻使いでした。養老滝五郎、中村一登久、吉田菊五郎、彼らはそれぞれ切磋琢磨して、水の出る箇所を増やし、手に持った扇子の先や、弟子のちょんまげの先、湯飲み、火のついた蠟燭の先からも水を噴き上げました。明治になるとこの装置を中座や弁天座など大きな芝居小屋に持ってゆき、ストーリーを作り、お囃子に合わせて振りをつけて一芸に仕上げました。これ以降、水絡繰りが水芸と名を変え、一つの芸として完成しました。

昔の労働で、最もきつかったのは水くみです。川や、井戸から何度も水を汲んでくるのは重労働でした。それが水芸ではいとも簡単水が吹き上がるものだから。当時の人には夢物語だったでしょう。

今日私は中国やアメリカ、など世界各国で水芸を演じています。日本独自の手妻(奇術)ですらどこに持って行っても喜ばれます。海外のお客様の増えた昨今、こうした伝統芸能が求められ、上演箇所が増えているのは誠に嬉しい限りです。どうぞ一度、江戸時代の大阪人が考案した水芸をご自身の目でご覧ください。

7月8日(土) YES THEATERでの舞台のご案内です。ぜひご覧ください!

「落語のマクラに学ぶスピーチ術」

藤田富美恵さん (関西演芸推進協議会 相談役・児童文学作家)

印象にのこるスピーチは、出だして聴衆の心をつかむ!

昨年の11月24日に開催された女性会で、藤田富美恵さんのプロデュースによりスピーチのコツを落語のマクラを例題として学ばせていただきました。当日は林家染雀さんの落語とともに楽しまれたとのことで、参加された方から「大変勉強になった」との感想をお聞きし、会員の皆様にも一部ご紹介したいということから、藤田さんの事務所を訪問し、お話を伺いました。



藤田富美恵さん(100年以上の長屋を再生させたという
オフィス兼ギャラリー&レンタルスペース「DRILL & DRILL」にて)

伝えたいことは「間」を心がけて話すこと。それは落語と同じです。

「落語のマクラ」とは、落語の本論に入る前に、話を聞いてもらいやすくするための前振り。「振り」とは「振り向かせる」と言うニュアンスもあります。この「マクラ」で本論に関連付けた話をする事で、スムーズに聞いてもらうようにと言われます。二つ目は「開示」。英語ではエクスポジション(exposition)と言うそうで、話の情景が見えてくるように話すことが大事だと言われます。三つ目は「間」。落語の中では、様々な表現方法がありますが、この「間」が人の心を惹きつける技にもなってくる。そういう意味でも、ビジネスの現場などで話をする際、このような「開示」や「間」をうまく取り入れることが大事であると。人前での話に慣れない場合、特に「間」を心がけ、伝えたい重要なところではひと呼吸入るような感覚で話されると、耳にも残るし、人の心にも響くのだとおっしゃいます。

言葉や話を伝える仕事だから、好奇心を持って...

藤田さんは漫才作家の(故)秋田実さんの長女で、児童文学作家として活躍されています。また、エッセイなども手掛けておられることから、文章を書く上で、好奇心を持って日常の出来事に対面されていると仰います。現在、お父様の本の出版に関わられていて、書庫の資料を調べておられた時に、お父様が現役で活動されていた頃の対談で「芸を育てると共に、お客様も育てるべき」とおっしゃっていた資料が見つかったとお話くださいました。

当協議会で掲げる主旨に通じることから、「昔も同じ、芸を育てるとともに、鑑賞者も育てるということは大事なことなんですね。」とおっしゃられ、秋田実先生と思いを共有できたような気持ちになりました。藤田さんを通じて、古き逸材にも出会えたような貴重な時間を過ごさせていただきました。

受講された
開高さん(協議会・女性会会長)
のご感想です!

初対面の方にお会いしたときに
どう相手に接すればいいのか
とまどう場面がありますが、
自分を飾らず、肩を張らず
そのままを出せばいいと言われ、
相手に自分を覚えていただく為の
法則を教えて頂き、その後
参考にしています。
女性会会長 開高みどり